

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

日本皮膚病理組織学会会誌 (2002.12) 18巻1号:22～25.

Clear Cell Hidradenocarcinomaの1例

佐藤恵美、中村哲史、山本明美

## 6. Clear Cell Hidradenocarcinoma の 1 例

### A Case of Clear Cell Hidradenocarcinoma

旭川医科大学皮膚科学教室

佐藤恵美、中村哲史、山本明美

key words: sweat gland tumors, clear cell tumors, clear cell hidradenocarcinoma

**症 例：**89歳、女性

**初 診：**2001年 8 月 1 日

**既往歴：**1985年～糖尿病、高血圧、脳動脈硬化症、1998年～糖尿病性網膜症、  
老人性白内障、2000年～脳出血

**現病歴：**初診の約半年前に左前額部の皮疹を認めていたが、急速に大きくなり、易出血性であるため当院関連施設を受診した。

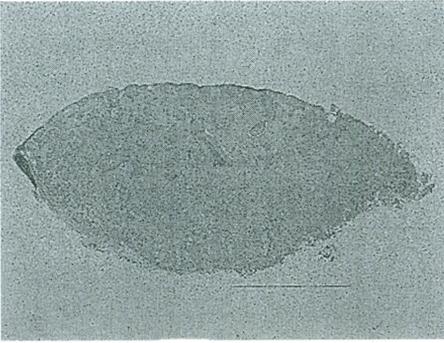
**現 症：**左前額部に 4 cm 大のドーム状で出血を伴った赤色腫瘍を認めた。

**治療経過：**CO<sub>2</sub> レーザーで姑息的切除の 3 ヶ月後、脳内出血で永眠された。

**病理組織学的所見：**真皮全層に大小の胞巣からなる腫瘍を認める (Fig.1)。被覆表皮は欠損し、腫瘍との連続性は明らかでない。腫瘍細胞は胞体が豊富で、明るい clear cell であり、島状に増殖している (Fig.2)。これらの間質は線維性で一部ヒアリン化し、腫瘍との間に空隙がみられる (Fig.3)。大きな胞巣の中央部では好酸性の胞体で、楕円形から紡錘形の核をもつ細胞に移行しており、好中球やリンパ球などの炎症性細胞浸潤を伴っていた (Fig.4)。clear cell の核は類円形で明るく、大小不同を呈し、核小体と核膜が明瞭で異型性が強く、核分裂像も多く認めた (Fig.5)。腫瘍細胞間と細胞内の一部に duct 様に分化した像を認め (Fig.6)、一部に squamous eddies 様の構造もみられた (Fig.7)。

**特殊染色および免疫組織化学染色：**Clear cell の胞体内および管腔様構造内は PAS 染色に弱陽性で、diastase 消化性であり、グリコーゲンの沈着を示唆した。keratin および EMA (Fig.8)、HMFG-2 染色 (Fig.9) では Clear cell に一致して陽性で、汗管様構造の周囲に強く発現した。CEA は逆に腫瘍中央部に陽性 (Fig.10) で、Clear cell 内にみられた squamous eddies 様の部分にも染色された (Fig.11)。間質は alcian blue 染色に陽性でムチンの沈着を認めた。間質内および管腔様構造外壁の紡錘形細胞が  $\alpha$  SMA に染色された (Fig.12)。Oil-red、S100、BRST-1、GCDFP-15 は陰性であった。

**考 察：**Clear cell は上皮系、非上皮系の様々な腫瘍で認められる<sup>1)</sup>。自験例は



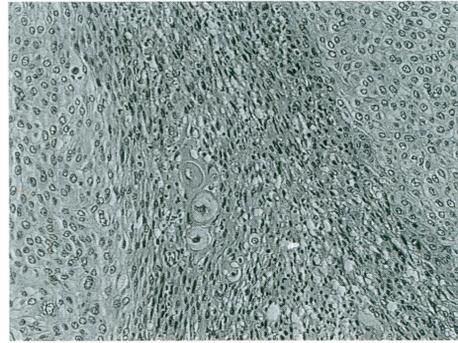
**Fig. 1**



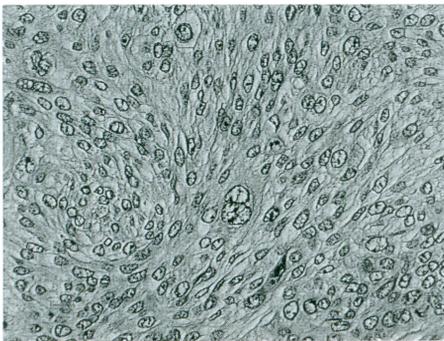
**Fig. 2**



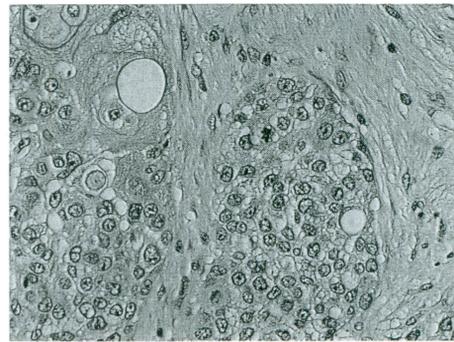
**Fig. 3**



**Fig. 4**



**Fig. 5**



**Fig. 6**

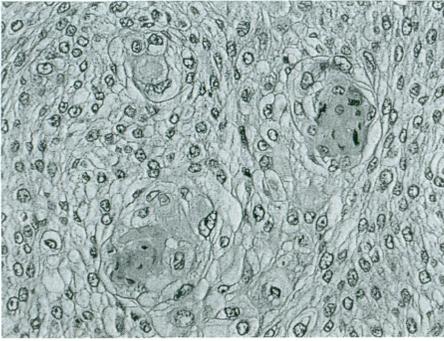
免疫組織化学染色結果から汗腺由来であり、以下のように鑑別診断を考えた。

まず、clear cell porocarcinoma<sup>2)</sup> は本例に明らかな表皮との連続性や腫瘍内に poroid cell を認めず、否定した。また、本例は間質にムチンの沈着を認め、鑑別として malignant clear cell mixed tumor も考えたが、上皮性成分に管腔構造の増生は著明でなく、否定した。

Clear cell hidradenocarcinoma は malignant nodular hidradenoma、 malignant clear cell hidradenoma、 malignant clear cell myoepithelioma、 malignant clear cell acrospiroma、 clear cell eccrine carcinoma、 malignant acrospiroma 等様々な名称が同義として使用されている疾患である<sup>3)</sup>。従来 eccrine 由来とする報告が多かったが、Ackerman らは管腔内に apocrine secretion を呈する例があることから、本症の一部が apocrine 由来であるとし、apocrine hidradenocarcinoma とも称している<sup>4)</sup>。Wong ら<sup>3)</sup> のまとめによると、病理組織学的に真皮から皮下の多房状結節が多いが、表皮との連続性を認め潰瘍化することもある。腫瘍胞巣の中央は壊死し comedo pattern を呈する。間質は硬化ないしヒアルリン化し、腫瘍間に空隙を形成する。腫瘍細胞は clear cell, squamoid cell, transitional cell の3種の細胞から構成され、異型性は強から弱まで幅がある。腫瘍内には管状および腺状構造がみられるが、cuticular を伴った細胞間管腔や細胞内管腔が特徴的な腫瘍も認め、squamoid cell はしばしばそれを取り囲むように同心円状ないし渦巻き状に配列する。腫瘍辺縁では慢性炎症性細胞浸潤があり、ムチンの沈着が著明な例がある。Squamoid cell は clear cell に徐々に移行したり、突然移行するところもある。自験例は上記所見によく類似し、本症と診断した。

自験例では胞巣中央の壊死はみられず、squamoid cell への移行がみられた。腫瘍内に細胞間管腔、細胞内管腔を認め、dermal duct、acrosyringium への分化が示唆された。免疫組織化学的にも CEA, EMA が陽性で汗腺分泌部を染色する GCDFP-15 は陰性であったため、導管部への分化を示唆している。通常アポクリン腺のマーカーとされる HMFG-2 染色が clear cell に一致して陽性であったが、エクリン汗腺にも染色されることがあるため、エクリンかアポクリンかの由来は明らかでない。

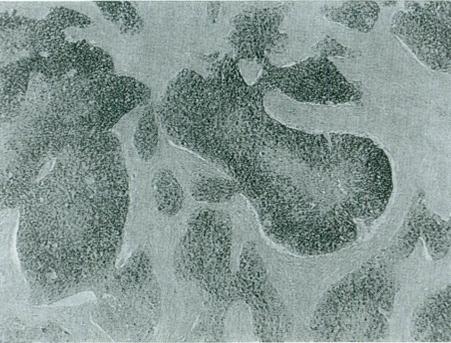
本症は clear cell がほとんどの構成を占めるものから全く欠く場合もあり、clear cell hidradenocarcinoma と呼称するのは適当でない<sup>4)</sup>とされているが、自験例では clear cell が主体であること、病理組織学および免疫組織化学的に由来が明らかでないことから clear cell hidradenocarcinoma と報告した。



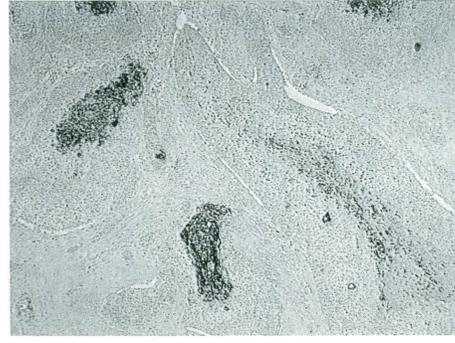
**Fig. 7**



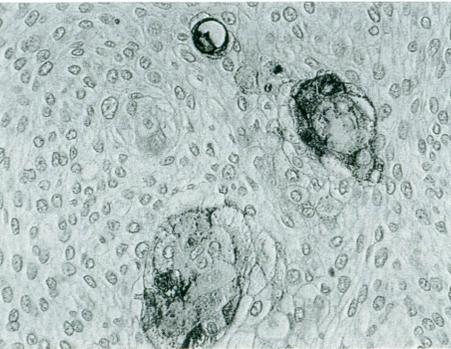
**Fig. 8**



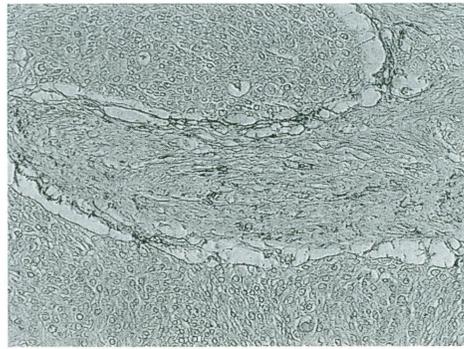
**Fig. 9**



**Fig. 10**



**Fig. 11**



**Fig. 12**

文 献

- 1) Saul Suster MD : Clear cell Tumors of the Skin, *Semin Diagn Pathol*, 13:40-59, 1996
- 2) Requena L et al : Clear cell porocarcinoma. Another cutaneous marker of diabetes mellitus, *Am J Dermatopathol*, 19 : 540-544, 1997
- 3) Wong MB et al : Clear cell eccrine carcinoma of the skin. A clinicopathologic study of nine patients, *Cancer*, 73 : 1631-1643, 1993
- 4) Requena L, Kiryu H, Ackerman AB : *Neoplasms with apocrine differentiation*, Lippincott-Raven, Philadelphia, 1998, 687-704